

番号	8	平成27年度公共事業再評価調書			担当課名 港湾整備課	
事業名	海岸(高潮)事業			事業主体	静岡県	
箇所名	沼津港海岸			関係市町村	沼津市	
事業採択年度	平成8年度		計画期間	平成8年度～平成34年度		
用地着手年度	-		工事着手年度	平成9年度		
再評価理由※	再評価実施(H22)後5年間が経過した時点で継続中の事業					
全体事業費	百万円 5,471	投資状況 (百万円)	～H25年度 5,078	H26年度 11	H27年度見込 40	計 5,129
事業概要	<p>(1)事業目的 東海地震等により発生が予想される津波から、背後地の浸水被害を防止・軽減し、住民の生命・身体・財産を保護し避難の円滑化を図ることを目的とする。</p> <p>(2)事業内容 水門：数=1基 胸壁：延長=170m 堤防(改良)：延長=653m 陸閘：数=2基</p>					
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 東日本大震災の甚大な津波被害を受け、国民の津波対策への関心が高まり、浸水が想定される沿岸地域では、津波避難計画の策定や津波避難訓練の実施など、防災意識の高揚が図られている。このような中、沿岸住民の生命と財産を守るうえで重要な役割を担う防潮堤の整備に対する期待は、益々大きなものとなっている。</p> <p>(2)事業の投資効果 費用 94.33 (億円) 便益 613.36 (億円) B/C 6.50</p> <p>(3)事業の進捗状況 (進捗率) 【事業費】 93.7% 5,129百万円/5,471百万円 【事業量】 79.8% 705m/883m (残事業) 胸壁 堤防(改良) (完了) 水門1基 陸閘2基</p>					
必要性等	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない				
【視点2】	<p>本事業による防潮堤の整備については、東日本大震災以降、地元からの事業に対する期待も非常に大きく、一連の津波防護ラインの早期完成が求められている。平成34年度までの事業計画期間内における、事業の早期完成を目指し、今後もコスト縮減に努めつつ、計画的な事業推進と事業効果の早期発現を図り、浸水想定区域の解消を図っていく。</p>					
今後の事業の進捗の見込み	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない				
【視点3】	<p>コスト縮減・代替案立案等の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防補強用の材料として、他事業の土砂の活用を図る。 ・防護ラインの開口部(臨港道路)について、ライフサイクルコストを考慮し、陸閘整備に代わる道路の縦断線形改良による嵩上げを採用した。 					
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を(継続・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 本事業は地震・津波対策アクションプログラム2013にも位置付けており、費用対効果も十分に認められ、津波対策に対する地域住民の要望も非常に大きいため、事業継続とする。</p>					

費用対効果の算出説明書

沼津港海岸 海岸(高潮)事業

1. 分析設定

・費用対効果分析の基本的な考え方

「海岸事業の費用便益分析指針(改訂版) 平成16年6月」

「治水経済評価マニュアル(案)」平成17年4月

(各種資産評価単価及びデフレーターは平成27年2月改訂版))

・社会的割引率 4%

2. 分析結果

総括表

総便益B	「浸水防護便益」 事業を実施しない場合に想定される浸水地域での資産被害額	613.36億円
総費用C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	94.33億円
B/C		6.50

総便益

○「浸水防護便益」

年平均被害軽減額を社会的割引率4%、評価対象期間70年(工期27年+50年)とし、現在価値化する。

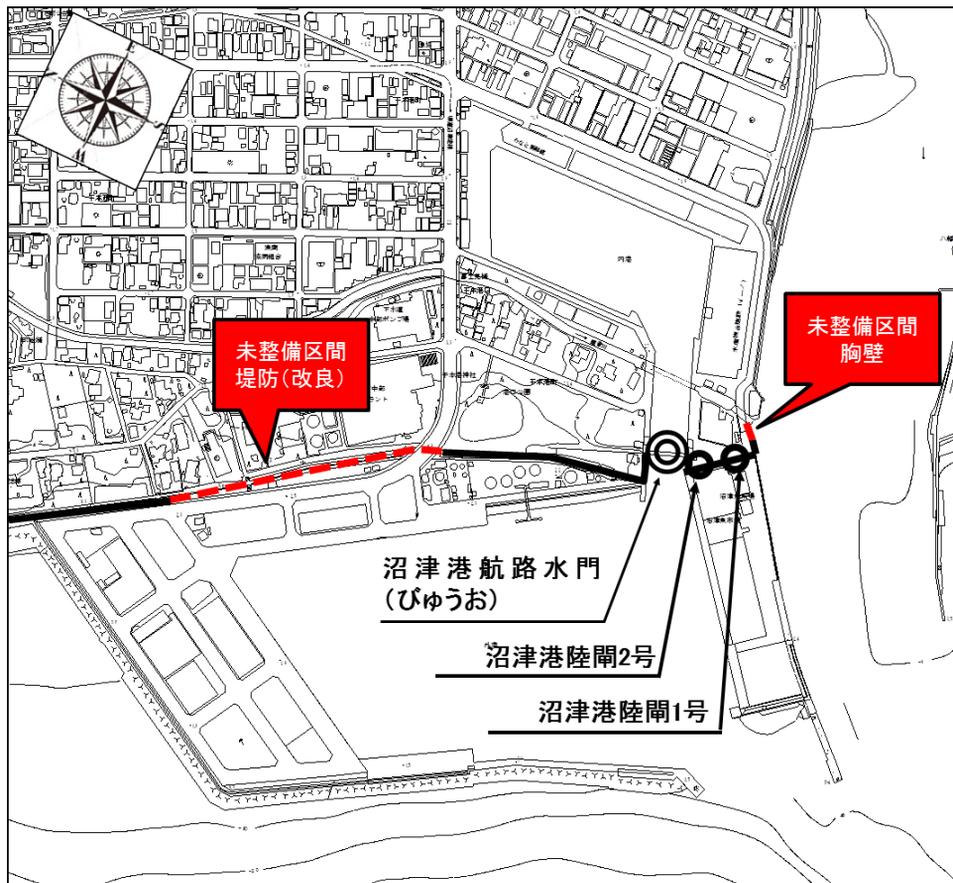
$$\begin{aligned} \text{便益計} &= \sum \text{年平均被害軽減額} / (1+0.04)^n \\ &= 613.36 \text{億円} \end{aligned}$$

総費用

全体事業費 93.75億円(事業費89.55億円、維持管理費4.20億円)

$$\begin{aligned} \text{費用計} &= \sum \text{年間建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\ &= 94.33 \text{億円} \end{aligned}$$

事業概要



事業内容

水門 数=1基
 堤防(改良) 延長=653m
 胸壁 延長=170m
 陸閘 数=2基

事業期間

平成8年度～平成34年度
 全体事業費 5,471百万円

凡例

- 堤防・胸壁整備済み
- - - 堤防・胸壁未整備
- ◎ 水門整備済み
- 陸閘整備済み

整備済施設

【沼津港航路水門「びゅうお」】



着工前



完成

内港への津波の侵入を防ぐ

胸壁(航路市場側)



陸 閘



整備済施設

胸壁

近景



遠景



津波防御ライン上の開口部となる無堤区間の施設整備を行う。

未整備施設

堤防(改良)

近景



遠景



既存施設のうち耐震性の不足する施設の改良を行う。

沼津港海岸 海岸(高潮)事業による効果

総費用(C) = 94.33億円(現在価値換算)

- ・全体事業費 90.09億円
- ・維持費 4.24億円 (0.084億円/年)

総便益(B) = 613.36億円(現在価値換算)

- ・想定浸水域(津波)の被害軽減効果
 - 千本地区における総被害軽減額: 6,019億円
 - (一般資産被害額: 2,127億円、公共土木施設被害額: 3,828億円、公共事業等被害額: 63億円)
- ⇒地震発生確率を加味した年間被害額: 37.57億円
- ⇒50年分の被害軽減効果を現在価値換算(総便益): 613.36億円

総費用(C)に対する総便益(B)
 $B/C = 6.5$

地元住民等からも事業推進の要望が大きい。